

急反発した米国の小売売上高

ポイント① 経済活動再開で小売売上が増大

6月16日に発表された5月の米国の小売売上高は、前月比+17.7%と4月の同-14.7%から急反発しました。小売売上高は4月まで3ヵ月連続で前月比で減少しましたが、新型コロナウイルスの感染を抑制するためにとられていた人々の行動を制限する措置が緩和され、各地で経済活動が再開されたことが、小売売上の増大につながりました。

ポイント② 生産の反発は小幅

鉱工業生産指数も5月には前月比+1.4%と4月の-12.5%から上昇に転じました。6月5日に発表された5月の雇用統計で非農業部門就業者数が増大し、今回、小売売上高と鉱工業生産指数が前月比プラスになったことで、米国景気は、回復に向かい始めたことが確認できたと言えるでしょう。

ただ、小売売上は前年同月比では-6.1%と、まだかなりのマイナスであり、通常レベルに戻ったわけではありません。鉱工業生産は前月比の伸びは市場の事前予想より小さく、前年同月比では-15.3%と大きく落ち込んでいます。設備稼働率も64.8%と、適正水準と考えられる80%を大きく下回っています。

ポイント③ 政策の後押しが続く見込み

経済活動再開によって感染が再拡大し始めた地域もあり、行動制限措置がさらに緩和されて景気回復に弾みがつくには、不安があります。

トランプ政権としては、早く企業の売上や生産の水準を正常水準に近づけ、歴史的な高水準に上昇した失業率を下げるのが、11月の大統領選に向けての大きな課題になっています。金融・財政政策の両面で雇用回復への後押しが続きそうです。

図1：米国の鉱工業生産指数と小売売上高

期間：2014年1月～2020年5月、月次

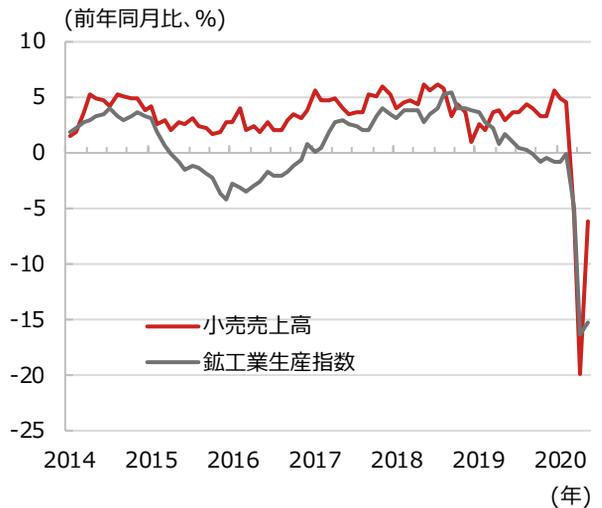
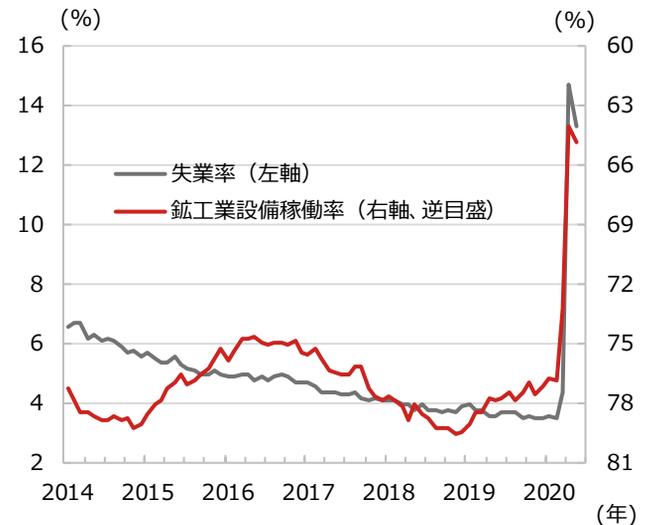


図2：米国の失業率と鉱工業設備稼働率

期間：2014年1月～2020年5月、月次



重要
イベント

6月26日

6月30日

米個人所得・消費支出、個人消費支出デフレーター（5月）
日本鉱工業生産指数、失業率、有効求人倍率（5月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。